

## 研究論文

## 韓日鉄鋼産業の比較優位分析

韓 基早\*

## I. はじめに

18世紀産業革命と共に鉄鋼産業はイギリスで発展をはじめ、イギリスとドイツを中心にヨーロッパが主導してきた。その後20世紀には米国に主導権が移り、1970年代末以後には日本に主導権が移動した。また1980年代に入っては韓国、中国などの開発途上国において鉄鋼産業の発展が早い。そして1990年代に鉄鋼の需要が再び増加した米国や市場統合によるシナジー効果を期待したヨーロッパなどの地域において主導権を握るための争いが激しくなってきた。しかし2000年代に入ってから世界市場において中国が浮上し、中国を含めた韓国、日本の三カ国が2009年現在世界鉄鋼の約60%以上を生産し、またその半分以上を消費している。

工業化の米とも言われまた工業化の象徴でもある鉄鋼産業は他の産業に基礎素材を供給することによって国家産業競争力を支えまた経済成長に重要な役割を果たしてきた。韓国鉄鋼産業の生産誘発効果は全産業の平均よりも高く前後方連関効果が高い産業として今まで国家建設および重化学工業化の成長に決定的に貢献してきた。このような鉄鋼産業の多大な経済波及効果、国家経済寄与度、そして韓中日鉄鋼産業の世界市場におけるポジションからして韓中日鉄鋼産業についての研究の必要性和研究の意義は

大きいと言えよう。

韓国鉄鋼産業は1973年に初めて100万トン以上を生産して以来2009年まで年平均11%以上の高い成長を達成してきた。ところが、既存の研究によれば、中国に対しては2005年を境にして競争力が弱くなり始め2008年現在比較劣位に置かれており、また日本に対しても依然として比較劣位に置かれているという(Shin, 2004; Kim・Suh, 2006; Im, 2007; 韓・金, 2008等)。これらの研究は主に貿易特化係数や顕示比較優位指数などの貿易競争力指数を用いて韓中日鉄鋼産業の輸出競争力を計っている。したがって必然的にこれらの分析は輸出部門のみを考慮することになり、そのため輸出競争力を計るには限界があると言われている。

しかし、本稿では輸入部門をも含めた産業内貿易による輸出競争力の分析は別の機会にゆずり、先にそうした限界を補完する形で貿易特化係数や顕示比較優位指数を応用した新たな分析モデルを用いて韓国鉄鋼産業の対日本競争力について分析を試みたい<sup>1)</sup>。こういった分析を通じて韓日鉄鋼産業の比較優位がどう変化して来ているのか、そして韓国鉄鋼産業の対日本競争力は果たして弱くなっているのか、を実証してみたい。そして本研究では韓日鉄鋼産業の貿易構造を分析する際にHS92コードの4桁に分類されているUN COMTRADEの貿易統計データ

\* 韓国東義大学貿易学科副教授

を利用する。分析期間は、1995年以前の UN COMTRADE のデータは不完全なので、1995年から2009年までとした。

## II . 先行研究の検討

韓中日鉄鋼産業についての最近の研究としては韓・金(2008)、Im(2007)、龐・黄(2007)、Kim・Suh(2006)、金博洙他8人(2005)、Nam(2004)などが挙げられる。Im(2007)とKim・Suh(2006)は貿易特化係数や顕示比較優位指数などを用いて韓国鉄鋼産業の対中国および対日本競争力を分析しており、韓国鉄鋼産業が中国と日本の間に挟まれたナット・クラッカー(nutcracker)状態を確認している。この他の研究は主に韓中日三国の鉄鋼産業の競争力の分析あるいは韓中日のFTAの締結が各国の鉄鋼産業に及ぼす影響を分析している。それから韓国鉄鋼産業の競争力の向上や発展方案に関する研究としては、Sohn・You(2005)、金(2006)、Kim(2000)などがあり、吳(2001)は中国鉄鋼産業の分析を通じて韓国鉄鋼産業への示唆点を導出している。

また中国鉄鋼産業についての研究としては、趙・徐・刘(2005)、李(2004)、谢・张(2003)などが挙げられる。これらの研究は中国政府の産業政策の変化が鉄鋼産業の発展方向に及ぼし得る影響に関する研究や中国鉄鋼産業の世界市場でのポジションと現況の分析を通じて中国鉄鋼産業の発展戦略を提示している。最後に日本鉄鋼産業についての研究としては佐藤(2007)、川端(2005)などが挙げられ、佐藤(2007)では生産、需要および供給、貿易などの基礎データを用いて世界鉄鋼産業の発展と変容の下で占める日本、中国、韓国を含めたアジア鉄鋼産業のポジションを検討している。そして川端

(2005)は日本鉄鋼産業の比較優位、韓国および中国鉄鋼産業の競争力と発展可能性などについて分析している。

以上のような既存の研究は、Im(2007)とKim・Suh(2006)を除いて主に韓中日三国の間の鉄鋼産業の貿易現況と競争力について分析するか、あるいは韓中日の間のFTA締結が各国の鉄鋼産業に及ぼす影響について分析しており、そしてその影響に対する対応策や発展戦略を提示している研究が大部分である。これらの研究結果によれば、韓国は、現在中国および日本の間に挟まれたナット・クラッカー(nutcracker)状態で、比較劣位に置かれている。しかし、前章で先述したように本稿では単純に貿易特化係数や顕示比較優位指数をそのまま用いるのではなく、これらの指数を応用した新たな分析モデルを用いて韓日鉄鋼産業を中心に韓日鉄鋼産業の比較優位の変遷を鉄鋼品目別に詳しく分析する。

## III . 競争力の分析方法

本章では各商品を対日競争力により次のように五つの品目群に分類する。すなわち競争力絶対優位(第1品目群)、競争力優位(第2品目群)、競争的(均衡)(第3品目群)、競争力劣位(第4品目群)、競争力絶対劣位(第5品目群)に分ける。段階別の分け方は次のようになる。

### 1 . 第1段階：韓国の対世界貿易特化係数で分類

第一段階での品目群の分類は、対世界貿易特化係数(Trade Specification Index; TSI)を用いる。TSIは韓国の特定鉄鋼製品の対世界純輸出を当該製品の交易規模で割った値で輸出入の相

対的な大きさを通じて当該品目の世界市場における競争力を間接的に表わす。

$$TSI_{kw}^i = \frac{X_{kw}^i - M_{kw}^i}{X_{kw}^i + M_{kw}^i}$$

$X_{kw}^i$  : i 品目の韓国の対世界輸出,  $M_{kw}^i$  : i 品目の韓国の対世界輸入

対世界 TSI の値が 0.34 以上の品目は「競争力絶対優位品目」に、0.03 以上 0.34 未満のものは「競争力優位品目」に、-0.03 より大きく 0.03 未満のものは「競争的(均衡)品目」に、-0.34 より大きく -0.03 以下のは「競争力劣位品目」に、そして -0.34 以下のは「競争力絶対劣位品目」に分類する(表 1 を参照)<sup>2)</sup>。

## 2. 第 2 段階：韓国の対世界輸出伸び率で調整

第 2 段階では、第 1 段階において「競争力絶対劣位品目群」に分けられた第 5 品目群の中で最近 5 年間の対世界輸出伸び率が韓国鉄鋼産業全体の対世界輸出伸び率の 2 倍以上である品目を、将来成長可能性が高いと判断し、同品目の品目群を一段階アップして「競争力劣位品目群」に再配置する。すなわち第 2 段階では、第 1 段階において第 5 品目群に分けられた品目の中で最近 5 年(あるいは 4 年間)の間における韓国の鉄鋼 i 品目の対世界輸出伸び率 ( $rate_{kw}^i$ ) が韓国の鉄鋼産業全体の対世界輸出伸び率 ( $mrate_{kw}^i$ ) の 2 倍以上である場合、その品目を第 4 品目群に再分類する(表 2 を参照)。

表 1 第 1 段階：対世界貿易特化係数での品目群の分類

品目群	基準	説明
第 1 品目群	$0.34 \leq TSI_{kw}^i$	競争力絶対優位品目群
第 2 品目群	$0.03 \leq TSI_{kw}^i < 0.34$	競争力優位品目群
第 3 品目群	$-0.03 < TSI_{kw}^i < 0.03$	競争的(均衡)品目群
第 4 品目群	$-0.34 < TSI_{kw}^i \leq -0.03$	競争力劣位品目群
第 5 品目群	$TSI_{kw}^i \leq -0.34$	競争力絶対劣位品目群

注： $TSI_{kw}$  は韓国鉄鋼産業の対世界貿易特化係数の平均

表 2 第 2 段階：輸出伸び率での調整

変化基準	第 1 段階	第 2 段階
n. a.	第 1 品目群	第 1 品目群
n. a.	第 2 品目群	第 2 品目群
n. a.	第 3 品目群	第 3 品目群
n. a.	第 4 品目群	第 4 品目群
$rate_{kw}^i \geq 2 \cdot mrate_{kw}^i$	第 5 品目群	第 4 品目群

注：①  $rate_{kw}^i$  は最近 4 年または 5 年間の韓国の鉄鋼 i 品目の対世界輸出伸び率

②  $mrate_{kw}^i$  は最近 4 年または 5 年間の韓国鉄鋼産業の対世界輸出伸び率

表3 第3段階：対日本 TSI での調整

変化基準	第2段階	第3段階
$TSI_{kj}^i$ が第5品目群に分類された場合	第1品目群	第4品目群
$TSI_{kj}^i$ が第4または第5品目群に分類された場合	第2品目群	第4品目群
$TSI_{kj}^i$ が第3または第4品目群に分類された場合	第3品目群	第3品目群
$TSI_{kj}^i$ が第1または第2品目群に分類された場合	第4品目群	第2品目群
$TSI_{kj}^i$ が第1品目群に分類された場合	第5品目群	第2品目群

注：i は品目を、j は相手国を表す。

### 3. 第3段階：韓国の対日本貿易特化係数で調整

第1段階および第2段階では、品目を対世界競争力によって分けたが、第3段階では韓国の対日本貿易特化係数を用いて品目の競争力を再分類する。このように相手国に対する競争力の分析において対世界競争力をも考慮するのは韓国の特定品目の対日本競争力が対世界競争力と必ずしも一致するのではないからである。即ち韓国が生産する特定品目が日本に対して競争力優位であるが、世界に対して競争力劣位にある場合もあり、その反対の場合もあり得る。従って特定品目の相手国に対する競争力を分析する際対世界競争力を一緒に考慮することで競争力分析に客観性を与える。

第3段階では、まず対日本 TSI を用いて前の第1段階において分類に使用された臨界値によって五つの品目群に分類する。そして第2段階において第1品目に分類された品目の中で対日 TSI を基準によって第5品目群に分けられた品目は第4品目群に再配置する。第2段階において第2品目群に分類された品目の中で対日 TSI を基準で第4または第5品目群に分けられた品目は第4品目群に移動させる。そしてこのような仕方第2段階で第3、第4、第5品目群に分類された品目の中で対日 TSI を基準に

よって 表3 のように再分類する。

### 4. 第4段階：顕示比較優位指数で調整

第4段階では、顕示比較優位指数（Revealed Comparative Advantage：以下、RCA と表記する）を用いる。RCA 指数は、特定の品目の世界全体輸出にある一国の占める比重を世界総輸出にその国の総輸出の占める比重で割った値である。もし特定品目の RCA 指数が1より大きければその品目は世界市場において比較優位にあり、1より小さければ比較劣位に置かれていると判断することができる。

$$RCA_i = \frac{X_k^i / X_w^i}{X_k / X_w}$$

$X_k^i$  は i 品目の韓国の輸出、 $X_w^i$  は i 品目の世界総輸出

$X_k$  は韓国の総輸出、 $X_w$  は世界総輸出

第3段階では第2、3、4、5品目群に分けられた品目の中でその品目の RCA 指数が鉄鋼産業の RCA 指数の2倍以上である場合、その品目を各々一段階アップ調整する。

### 5. 第5段階：対日本顕示比較優位指数（市場顕示比較優位指数）で調整

TSI による分類と同じく RCA 指数による相

手国に対する競争力の分析においても対世界競争力を考慮してから相手国の RCA 指数によって各品目を分類する。この最後の第 5 段階では、韓国の特定品目の対世界競争力 (RCA) が低くても対日競争力 (RCA) が高い場合もあり得るので、韓日間の競争力を客観的に判断するために対日顕示比較優位指数 (Revealed Comparative Advantage:  $RCA_{kj}^i$ ) を用いる。

RCA 指数は先述したように世界総輸出に占めるある一国 (例え、韓国) の輸出比重に対してある一産業の世界総輸出に占めるある一国のその産業の輸出比重がどれ位占めるかを表わす指数で、この値が 1 より大きければその産業に比較優位があることを意味する。この指数を対日競争力について調べるために次のように変形する。

$$RCA_{kj}^i = \frac{X_{ki}^i / X_{kw}^i}{X_{kj}^i / X_{kw}^i}$$

$X_{ki}^i$  は i 品目の韓国の対日本輸出、 $X_{kw}^i$  は i 品目の韓国の対世総輸出

$X_{kj}^i$  は韓国の対日本輸出、 $X_{kw}^i$  は韓国の対世界総輸出

これは、韓国の総輸出の中で対日総輸出が占める比重と i 産業において韓国の総輸出の中で対日輸出が占める比重とを比率で表わす。したがってこの値が 1 より大きければ日本に輸出する品目の中でもその品目の輸出が特に多いということの意味し、これは対日貿易においてその品目に比較優位があることを意味する。

第 4 段階で第 2、3、4、5 品目に分けられた品目の中で RCA 指数が鉄鋼産業の RCA 指数の 2 倍以上の品目を各々一段階アップ調整する。

## IV . 分析結果

### 1 . 韓国鉄鋼産業の対日本競争力の推移

先述した分析方法を用いて 1995 年から 2009 年まで韓国鉄鋼産業の対日本競争力の推移を競争力別 (品目群別) に輸出入額および品目数について検討してみよう<sup>3)</sup>。

まず、表 4 でみるように、韓国鉄鋼産業の対日輸出入は 55 品目で 1995 年に 21 億 2218 万ドルを日本に輸出したが、その後減少と増加を繰り返しながら 2009 年には 25 億 2711 万ドルを輸出し、年平均 1.3% の緩やかな対日輸出伸び率を見せている。しかし同期間に日本からの輸入は年平均 7.0% の高い伸び率で増加し、27 億 631 万ドルから 91 億 6414 万ドルに増加した。このような鉄鋼産業の対日輸入依存的な貿易構造を反映して対日貿易収支は 1995 年からずっと赤字を出しており、2009 年には 66 億 3704 万ドルの赤字を記録している。このように韓国鉄鋼産業は対日輸出入額だけをみると対日輸入依存的で競争力が弱いと言わざるをえない。

次に品目群別対日本競争力について考えてみよう。第一に、競争力 (品目群) 別の品目数で見ると、まず、競争力優位である「第 1 品目群 + 第 2 品目群」に分類された品目数は 1995 年 : 20 2000 年 : 23 2005 年 : 25 2009 年 : 25 と増加したが、競争力劣位である「第 4 品目群 + 第 5 品目群」に分類された品目数は 1995 年 : 32 2000 年 : 30 2005 年 : 26 2009 年 : 26 と減ってきた。また競争的である「第 3 品目群」の品目数も同期間に 3 2 4 4 と増加してきた。したがって品目数で見た場合、韓国鉄鋼産業の対日競争力は 1995 年以来少しずつ改善してきたといえる。

第二に、1995 年韓国鉄鋼産業の対日競争力優位である「第一品目群」と「第二品目群」は対

表4 韓国鉄鋼産業の対日本競争力の推移

(単位: 1万ドル、%)

		第1品目群	第2品目群	第3品目群	第4品目群	第5品目群	合計
1995	輸出	119,526	62,765	801	19,137	9,990	212,218
		56.3	29.6	0.4	9.0	4.7	100.0
	輸入	57,458	53,144	5,735	108,582	45,713	270,631
		21.2	19.6	2.1	40.1	16.9	100.0
	貿易収支	62,067	9,621	-4,934	-89,445	-35,723	-58,413
品目数	16	4	3	23	9	55	
2000	輸出	96,256	9,416	38,891	9,791	2,363	156,717
		61.4	6.0	24.8	6.2	1.5	100.0
	輸入	54,733	10,749	115,713	94,838	26,823	302,856
		18.1	3.5	38.2	31.3	8.9	100.0
	貿易収支	41,523	-1,333	-76,823	-85,047	-24,460	-146,140
品目数	18	5	2	20	10	55	
2005	輸出	195,291	11,608	8,782	21,794	55,981	293,457
		66.5	4.0	3.0	7.4	19.1	100.0
	輸入	109,261	3,765	8,742	148,475	424,961	695,205
		15.7	0.5	1.3	21.4	61.1	100.0
	貿易収支	86,030	7,843	40	-126,681	-368,980	-401,748
品目数	21	4	4	14	12	55	
2009	輸出	134,891	17,026	10,839	43,880	46,075	252,711
		53.4	6.7	4.3	17.4	18.2	100.0
	輸入	75,928	3,658	40,116	374,567	422,146	916,414
		8.3	0.4	4.4	40.9	46.1	100.0
	貿易収支	58,963	13,368	-29,277	-330,686	-376,071	-663,704
品目数	18	7	4	19	7	55	

資料: UN COMTRADE の統計データを用いて筆者が作成。

日鉄鋼産業総輸出の約85%の11億9526万ドルと6億2765万ドルを輸出し、競争力の弱い「第4品目群」および「第5品目群」は14%ほどを輸出しており、1995年の対日鉄鋼品目の輸出は主に競争力の高い品目群の鉄鋼製品が輸出されている。しかし輸入の場合、約60%の「第4品目群」と「第5品目群」が各々10億8582万ドルと4億5713万ドルが輸入されただけでなく、競争力優位にある「第1品目群」と「第2品目群」

の約40%の5億7458万ドルと5億3144万ドルも輸入されている。すなわち競争力の高い品目を輸出しながらも同時に競争力の高い品目を高い比重で輸入している。これは当時韓国国内鉄鋼産業の需給関係の歪み、すなわち需要と供給の不均衡を表している。

第三に、しかしこのような対日鉄鋼産業の輸出入構造はその以降改善してきて、2009年現在、競争力優位の「第1、2品目群」を60%ほ

ど第1品目群；13億4891万ドル、第2品目群；1億7026万ドル）を輸出し、競争力劣位の「第4、5品目群」も35%ほど（第4品目群；4億3880万ドル、第5品目群；4億6075万ドル）を輸出した。ところが、競争力優位の「第1、2品目群」は約9%（第1品目群；7億5928万ドル、第2品目群；3658万ドル）を輸入しただけで、競争力劣位にある「第4、5品目群」を約90%（第4品目群；29億8631万ドル、第5品目群；41億8038万ドル）も輸入している。このように2009年の輸出入構造は、1995年の輸出入構造と違って輸出は主に競争力優位にある品目群だけではなく競争力劣位にある品目群も輸出する構造に変わったが、輸入においてはほとんど競争力劣位にある品目群だけを輸入する構造に変わった。つまりこのような構造の変化が起きてきたのは、一つは韓国国内における鉄鋼需給不均衡の改善とある程度の技術の向上があったこと、そしてもう一つはこういった周辺国の変化に伴って日本の相対的な鉄鋼競争力の弱体化があったからであると考えられる。

## 2. 韓国鉄鋼産業の品目別対日本競争力（1995年）

ここからは各品目がどの品目群に分類され、どれ位の競争力をもっているのかを調べるために、競争力優位品目である「第1、2品目群」と競争力劣位品目である「第4、5品目群」に分けて競争力優位および劣位品目などの特徴を考察する。

表5 は1995年度の競争力（絶対）優位品目を表している。まず、競争力優位品目（第1品目群+第2品目群）には、板類の7209（冷間圧延鋼板 - 広幅）、7208（重厚版・熱延鋼板 - 広幅）、7210（鍍金鋼板 - 広幅）、鋼管類の7306（電気溶接鋼管）、7303（鑄鉄管）、7325（其の

他鑄物用品）、棒形鋼類の7217（線）、7229（其の他合金鋼の線）、7301（鋼矢板・溶接形鋼）など、そして鉄鋼製品類の7308（構造物とその部分品）、7310（各種材料用の貯蔵槽・タンク等 - 大）、7323（食卓・台所用品）などの20品目がランクされている。この中で貿易黒字が1000万ドル以上で、特に競争力が強い品目を順番に並べると、7209、7208、7306、7308、7325、7210、7301、7217、7229、7310、7323である。さらに、7210は黒字が1000万ドルに近く、黒字が5000万ドル以上なのは、7209、7208、7306、7308、7325で、7209は2億7000万ドル、7208は1億に近い黒字を出している。これらの品目が日本に対して競争力が強い。そして競争的な「第3品目」には素材類と板類が入っているが、貿易収支は赤字で対世界あるいは対日本RCAが高いから競争的な品目に分けられている。

次に競争力劣位品目（第4品目群+第5品目群）には、素材類の7201（銑鉄及びスピーゲル）、7202（Ferro Alloys）、7204（古鉄及び再溶解用のインゴット）、7218（STSの一次形状と半製品）、板類の7225（ケイ素電気鋼の鋼板 - 広幅）、7212（鍍金鋼板 - 狭幅）、7219（STSの熱間圧延鋼板 - 広幅）、7220（STSの熱間圧延鋼板 - 狭幅）、7226（ケイ素電気鋼の鋼板 - 狭幅）、棒形鋼類の7216（形鋼）、7213（熱延圧延した棒）、7215（其の他の棒）、7302（軌条）など、鋼管類の7304（鋼管 - seamless）、7305（その他の管 - 円形・広幅）など、鉄鋼製品の7320（ばね及びばね板）、7326（その他の製品）、7321（ストーブ、レンジ・炉、調理用加熱容器）、7315（鎖とその部分品）などの32品目がランクされている。この中で赤字が1000万ドル以上また1000万ドルに近い品目を順番に並べると、7219、7304、7216、7225、7204、7220、7201、7228、7226、7213、7218、7221、7326、7320、7202、7212、

表5 1995年度競争力優位品目

(単位: 1万ドル)

品目群	HS 92	対日本輸出	対日本輸入	貿易収支	対世界TSI	対日TSI	対世界RCA	対日本RCA	品目名	用度別分類
1	7209	37,820	10,234	27,587	0.80	0.57	3.30	3.00	冷間圧延鋼板(広幅)	板類
1	7210	31,665	26,755	4,911	0.46	0.08	1.90	2.90	鍍金鋼板(広幅)	板類
1	7217	4,231	1,104	3,127	0.73	0.59	1.80	2.46	線	棒形鋼類
1	7223	937	513	424	0.81	0.29	3.63	0.92	STS鋼の線	棒形鋼類
1	7229	4,264	1,563	2,701	0.50	0.46	4.38	4.44	その他合金鋼の線	棒形鋼類
1	7301	4,273	416	3,858	0.78	0.82	3.77	4.00	鋼矢板、溶接形鋼	棒形鋼類
1	7303	57	46	11	0.47	0.10	0.55	0.46	鋳鉄管	鋼管類
1	7306	11,823	5,981	5,843	0.64	0.33	2.14	2.09	電気溶接鋼管	鋼管類
1	7308	6,993	1,392	5,601	0.90	0.67	4.54	0.40	構造物とその部分品	鉄鋼製品
1	7310	4,960	3,069	1,891	0.26	0.24	1.22	4.27	各種材料用の貯蔵槽・タンク等(大)	鉄鋼製品
1	7312	2,629	3,785	1,156	0.56	0.18	4.29	0.81	より線、ロープ、ケーブル等(電気絶縁除外)	鉄鋼製品
1	7313	24	19	5	0.70	0.12	0.48	1.18	有刺線、帯、平線等	鉄鋼製品
1	7317	985	66	919	0.92	0.87	4.82	0.68	釘、びょう、波釘、また釘	鉄鋼製品
1	7318	1,468	1,528	60	0.35	0.02	0.67	0.75	ねじ、ボルト、ナット、リベット等	鉄鋼製品
1	7323	1,889	739	1,150	0.79	0.44	2.98	0.52	食卓・台所用品	鉄鋼製品
1	7325	5,506	249	5,257	0.40	0.91	1.82	3.29	その他鋳物用品	鋼管類
2	7208	61,312	51,734	9,577	0.04	0.08	2.95	3.17	重厚板・熱延鋼板(広幅)	板類
2	7309	704	747	43	0.25	0.03	1.00	1.58	各種材料用の貯蔵槽・タンク等(小)	鉄鋼製品
2	7314	628	556	72	0.19	0.06	0.63	1.71	ワイヤクロス、ワイヤグリル、網・柵等	鉄鋼製品
2	7322	122	107	15	0.24	0.07	0.10	1.93	セントラルヒーティング用のラジエーター等	鉄鋼製品
3	7206	252	997	745	0.80	0.60	0.41	7.34	鉄塊、卑合金鋼(7203を除く)	素材類
3	7211	524	3,317	2,793	0.02	0.73	0.65	0.78	熱延冷延鋼板(狭幅)	板類
3	7224	25	1,420	1,396	0.97	0.97	0.01	5.85	インゴットその他の一次形状の物	素材類

資料: UN COMTRADE のデータを利用して筆者が計算。

7315、7215、7302である。さらに赤字が5000万ドル以上であるものは、7219、7304、7216、7225、7204、7220で、7219は4億以上、7304は2億以上、7216は1億7000万ドルを超えている。特にこれらの品目において韓国は日本に対して競争力が弱いといえよう(表6を参照)。

そして表7で示すように競争力優位品目は、板類が3、棒形鋼類が4、鋼管類が3、そして鉄鋼製品が10品目で、合わせて20品目である。これに対して競争力劣位品目は、素材類が

7、板類が5、棒形鋼類が9、鋼管類が3、そして鉄鋼製品が8品目で、合わせて32品目である。特に鉄鋼製品は18品目の中で10品目を占めて相対的に競争力が強い。また鋼管類は6品目の中で3品目を占めて競争的である。ほかの鉄鋼類は相対的に日本に対して競争力が弱いといえよう。

次に表8は品目別輸出およびその比重を、表9は品目別輸入およびその比重を示している。まず、先述したように鉄鋼産業の総輸出

表6 1995年度競争力劣位品目

(単位: 1万ドル)

品目群	HS 92	対日本輸出	対日本輸入	貿易収支	対世界TSI	対日TSI	対世界RCA	対日本RCA	品目名	用度別分類
4	7202	61	1,218	1,157	0.97	0.91	0.04	0.66	Ferro Alloys	素材類
4	7204	1,705	7,552	5,848	0.96	0.63	0.10	6.42	古鉄及び再溶解用のインゴット	素材類
4	7205	98	717	620	0.77	0.76	0.29	2.08	鉄鋼の粒と粉	素材類
4	7212	452	1,499	1,047	0.61	0.54	1.57	0.41	鍍金鋼板(狭幅)	板類
4	7214	995	1,077	82	0.21	0.04	0.62	0.89	その他の棒(少し加工)	棒形鋼類
4	7215	102	997	896	0.13	0.82	0.35	0.63	其の他の棒	棒形鋼類
4	7219	4,291	41,262	36,971	0.19	0.81	1.37	0.71	STS鋼の熱間圧延鋼板(広幅)	板類
4	7220	21	5,656	5,635	0.44	0.99	0.41	0.06	STS鋼の熱間圧延鋼板(狭幅)	板類
4	7221	1,244	3,266	2,022	0.18	0.45	2.50	1.49	STS鋼の棒	棒形鋼類
4	7222	659	1,445	786	0.60	0.37	1.74	0.50	STS鋼の其他棒および形鋼	棒形鋼類
4	7226	215	3,929	3,713	0.55	0.90	0.55	0.82	ケイ素電気鋼の鋼板(狭幅)	板類
4	7227	1	879	879	0.79	1.00	0.09	0.03	其の他合金鋼の棒1	棒形鋼類
4	7228	551	4,696	4,145	0.53	0.79	0.22	2.17	其の他合金鋼の其他棒・形鋼	棒形鋼類
4	7302	252	1,145	893	0.14	0.64	0.76	0.83	軌条	棒形鋼類
4	7304	559	21,115	20,556	0.80	0.95	0.19	0.98	鋼管(seamless)	鋼管類
4	7305	270	752	482	0.54	0.47	0.90	0.39	その他の管(円形、広幅)	鋼管類
4	7307	2,358	2,741	383	0.11	0.08	0.75	1.85	管用継手	鋼管類
4	7311	740	895	155	0.05	0.09	2.07	1.01	容器(圧縮または液化ガス用のもの)	鉄鋼製品
4	7316	1	6	5	0.11	0.80	0.57	0.04	アンカーとその部分品	鉄鋼製品
4	7319	94	230	136	0.19	0.42	0.88	1.78	安全ピン、手縫針、手編針等	鉄鋼製品
4	7321	212	1,062	850	0.04	0.67	0.66	0.37	ストーブ、レンジ、炉、調理用加熱器等	鉄鋼製品
4	7324	98	339	241	0.39	0.55	0.94	0.34	衛生用品とその部分品	鉄鋼製品
4	7326	4,159	6,102	1,943	0.16	0.19	0.55	2.15	其の他製品	鉄鋼製品
5	7201	25	4,723	4,698	1.00	0.99	0.01	3.40	銑鉄およびスピーゲル	素材類
5	7203	0	13	13	1.00	1.00	0.00	0.00	直接還元鉄	素材類
5	7207	5,462	2,845	2,617	0.74	0.32	0.69	3.18	鉄或いは非合金鋼の半製品	素材類
5	7213	3,121	6,824	3,703	0.61	0.37	0.50	3.85	棒(熱延圧延したもの)	棒形鋼類
5	7216	522	17,230	16,708	0.43	0.94	0.97	0.23	形鋼	棒形鋼類
5	7218	19	2,161	2,142	0.96	0.98	0.05	0.47	STS鋼の一次形状と半製品	素材類
5	7225	708	9,550	8,842	0.67	0.86	0.27	1.83	ケイ素電気鋼の鋼板(広幅)	板類
5	7315	74	1,073	999	0.36	0.87	0.32	0.37	鎖及びその部分品	鉄鋼製品
5	7320	59	1,295	1,236	0.61	0.91	0.12	0.61	ばね及びばね板	鉄鋼製品

資料: UN COMTRADE のデータを利用して筆者が計算。

は主に競争力優位品目(絶対優位; 56.3%、優位; 29.6%)が輸出されている。また総輸出27

億631万ドルの中で、板類が64.6%、鉄鋼製品が12.2%、棒形鋼類が10.0%輸出されていて板

表7 1995年度競争力別品目数目の現況

年度	(1)競争力 絶対優位	(2)競争力 優位	(1)+(2)	(3)競争的	(4)競争力 劣位	(5)競争力 絶対劣位	(4)+(5)	合計
素材類	0	0	0	2	3	4	7	9
板類	2	1	3	1	4	1	5	9
棒形鋼類	4	0	4	0	7	2	9	13
鋼管類	3	0	3	0	3	0	3	6
鉄鋼製品	7	3	10	0	6	2	8	18
合計	16	4	20	3	23	9	32	55

資料：表5 および 表6 より作成。

表8 品目別輸出およびその比重（1995年度）

（単位：上段；1万ドル、下段2行；%）

	競争力 絶対優位	競争力 優位	競争的 (均衡)	競争力 劣位	競争力 絶対劣位	合計
素材類	0	0	277	1,863	5,507	7,646
	0.0	0.0	3.6	24.4	72.0	100.0
	0.0	0.0	34.6	9.7	55.1	3.6
板類	69,486	61,312	524	4,979	708	137,009
	50.7	44.8	0.4	3.6	0.5	100.0
	58.1	97.7	65.4	26.0	7.1	64.6
棒形鋼類	13,705	0	0	3,804	3,642	21,151
	64.8	0.0	0.0	18.0	17.2	100.0
	11.5	0.0	0.0	19.9	36.5	10.0
鋼管類	17,386	0	0	3,187	0	20,573
	84.5	0.0	0.0	15.5	0.0	100.0
	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1
鉄鋼製品	18,949	1,453	0	5,304	133	25,839
	73.3	5.6	0.0	20.5	0.5	100.0
	15.9	2.3	0.0	27.7	1.3	12.2
合計	119,526	62,765	801	19,137	9,990	212,218
	56.3	29.6	0.4	9.0	4.7	100.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：表5 および 表6 より作成。

類の輸出が半分以上を占めている。そして板類の輸出額、13億7009万ドルの中で競争力優位品目が95%以上を占めている。鉄鋼製品の場合

は、輸出額2億5839万ドルの中で競争力優位品目が約80%、劣位品目が20%を占めている。しかし棒形鋼類の場合、輸出（2億1151万ドル）

表9 品目別輸入およびその比重（1995年度）

（単位：上段；1万ドル、下段2行；％）

	競争力 絶対優位	競争力 優位	競争的 (均衡)	競争力 劣位	競争力 絶対劣位	合計
素材類	0	0	2,417	9,487	9,741	21,646
	0.0	0.0	11.2	43.8	45.0	100.0
	0.0	0.0	42.2	8.7	21.3	8.0
板類	36,988	51,734	3,317	52,347	9,550	153,937
	24.0	33.6	2.2	34.0	6.2	100.0
	64.4	97.3	57.8	48.2	20.9	56.9
棒形鋼類	3,595	0	0	13,507	24,054	41,156
	8.7	0.0	0.0	32.8	58.4	100.0
	6.3	0.0	0.0	12.4	52.6	15.2
鋼管類	6,276	0	0	24,608	0	30,884
	20.3	0.0	0.0	79.7	0.0	100.0
	10.9	0.0	0.0	22.7	0.0	11.4
鉄鋼製品	10,599	1,409	0	8,633	2,368	23,009
	46.1	6.1	0.0	37.5	10.3	100.0
	18.4	2.7	0.0	8.0	5.2	8.5
合計	57,458	53,144	5,735	108,582	45,713	270,631
	21.2	19.6	2.1	40.1	16.9	100.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：表5 および 表6 より作成。

の中で、競争力優位品目が約65%、劣位品目が35%を占めている。ほとんど競争力劣位品目が輸出されている素材類を除いて全体的に競争力優位品目が主に輸出されている。

続いて 表9 が示すように品目別輸入の特徴を見ると、まず、鉄鋼製品の輸入は競争力劣位品目だけではなく、競争力優位品目も多く輸入されている。鉄鋼産業総輸入、27億631万ドルの中で競争力劣位品目が57%、競争力優位品目が約40%を占めている。また総輸入の中で、板類が56.9%、棒形鋼類が15.2%、鋼管類が11.4%、鉄鋼製品が8.5%、素材類が8.0%を占めて、主に板類と棒形鋼類、鋼管類が多く輸入

されている。そして板類と鉄鋼製品は競争力劣位品目だけではなく、優位品目も多く輸入されている。板類の輸入の中で競争力劣位品目が40%ほど、優位品目が約60%を占めている。また鉄鋼製品は競争力劣位品目と優位品目が各々50%ほど輸入されている。しかし他の鉄鋼製品の場合は競争力劣位品目が多く輸入されている。

以上、鉄鋼産業の輸出および輸入の特徴をみたが、輸出は主に板類と鉄鋼製品、棒形鋼類が輸出され、輸入は主に板類と棒形鋼類、鋼管類が輸入されている。そして輸出は主に競争力優位品目が輸出されているが、輸入の場合は競争

力劣位品目だけではなく、優位品目もかなり大きい比重で輸入されている。特に板類と鉄鋼製品の場合がそうである。これは韓国国内における板類や鉄鋼製品の一部品目の供給不足、つまり需給が不均衡であることを物語っている。

以上の1995年韓国鉄鋼産業の対日本競争力に関する品目別競争力および鉄鋼産業の輸出入の分析に基づいて1995年の韓国鉄鋼産業の競争力を考えると、鉄鋼製品を除いて全体的に日本に対して競争力劣位に置かれている。特に板類と素材類、そして棒形鋼類において競争力が劣る。

### 3. 韓国鉄鋼産業の品目別対日本競争力 (2009年)

まず、表10 でみるように競争力優位品目(第1品目+第2品目)には、板類の7209(冷間圧延鋼板-広幅)、7210(鍍金鋼板-広幅)、7211(熱延冷延鋼板-狭幅)など、棒形鋼類の7217(線)、7223(STSの線)、7229(その他合金鋼の線)など、鋼管類の7306(電気溶接鋼管)、7307(管用継手)、7325(その他鋳物用品)など、その他の鉄鋼製品である7310(各種材料用の貯蔵貯蔵槽・タンク)、7311(圧縮または液化ガス用の容器)、7308(構造物とその部分品)、7326(其の他製品)などの25品目がランクされている。この中で貿易黒字が1000万ドル以上または1000ドルに近い品目を貿易収支の大きい順に並べると、7209、7208、7217、7326、7312、7325、7307、7306、7229、7223、7311、7310である。さらにこの中で貿易黒字が5000万ドル以上なのは7209、7208、7217、7326、7312、7325で、7326は7000ドル以上、7208と7217は1億ドル以上、7209は2億以上の黒字を出している。これらの品目が特に日本に対して競争力優位にある。ところが、貿易赤字の大きい7210(鍍金鋼板-広幅)が競争力優位に入っているのは対

世界競争力(TSI、RCA)が強く、将来の成長可能性が考慮されたからである。

そして競争的な「第3品目」に素材類と棒形鋼類の4品目が入っているが、すべて貿易赤字で対世界あるいは対日本のどちらかの競争力が強いために第3品目に分類されている。

次に、表11 は対日本競争力が弱い劣位品目を表している。まず、競争力劣位品目(第4品目+第5品目)は26の品目だが、これには素材類の7204(古鉄及び再溶解用のインゴット)、7205(鉄の粒と粉)、7207(鉄・非合金鋼の半製品)、7224(インゴット・その他の一次形状の物)など、板類の7208(重厚版・熱延鋼板-広幅)、7226(ケイ素電気鋼の鋼板-狭幅)、7212(鍍金鋼板-狭幅)、7219(STSの熱間圧延鋼板-広幅)、7225(ケイ素電気鋼の鋼板-広幅)など、棒形鋼類の7213(棒-熱延圧延した物)、7214(その他の棒-若干加工)、7216(形鋼)、7227(その他合金鋼の棒)、7228(その他合金鋼の其の他棒・形鋼)、7215(其の他の棒)など、鋼管類の7304(seamless鋼管)、そして鉄鋼製品の7315(鎖及びその部分品)、7319(安全ピン、手縫針、手編針等)などがランクされている。この中で貿易赤字が1000万ドル以上なのは、7228、7213、7224、7205、7315、7212で、赤字が5000万ドル以上なのは、7227、7225、7226、また赤字が2億ドルに近い物は7214と7219であり、赤字が3億5000万ドル以上なのは7304と7216である。さらに7207と7204は貿易赤字が11億以上、7208は33億以上を記録している。特にこれらの鉄鋼品目において韓国は競争力劣位に置かれている。

そして表12 で示すように競争力優位品目は、1995年より板類と鋼管類は1品目増えて板類が4、鋼管類が4で、棒形鋼類は1995年と同じく4品目、そして鉄鋼製品は3品目増えて13

表10 2009年度競争力（絶対）優位品目

（単位：1万ドル）

品目群	HS 92	対日本輸出	対日本輸入	貿易収支	対世界TSI	対日TSI	対世界RCA	対日本RCA	品目名	用度別分類
1	7209	31,001	8,880	22,121	0.90	0.55	6.07	2.11	冷間圧延鋼板（広幅）	板類
1	7210	19,134	25,229	6,095	0.80	0.14	3.62	0.94	鍍金鋼板（広幅）	板類
1	7211	718	682	36	0.67	0.03	1.38	0.84	熱延冷延鋼板（狭幅）	板類
1	7217	10,823	631	10,191	0.62	0.89	2.55	4.86	線	棒形鋼類
1	7220	1,279	2,222	942	0.34	0.27	1.66	1.25	STS鋼の熱間圧延鋼板（狭幅）	板類
1	7223	2,830	790	2,039	0.54	0.56	3.66	3.42	STS鋼の線	棒形鋼類
1	7229	4,562	1,623	2,939	0.53	0.48	3.28	6.09	その他合金鋼の線	棒形鋼類
1	7301	617	707	90	0.84	0.07	3.02	0.69	鋼矢板、溶接形鋼	棒形鋼類
1	7305	367	214	152	0.93	0.26	0.97	0.15	その他の管（円形、広幅）	鋼管類
1	7306	4,985	1,315	3,670	0.76	0.58	1.58	1.13	電気溶接鋼管	鋼管類
1	7307	5,263	1,512	3,751	0.37	0.55	1.98	1.12	管用継手	鋼管類
1	7310	2,924	1,946	978	0.05	0.20	0.50	7.04	各種材料用の貯蔵槽・タンク等（大）	鉄鋼製品
1	7311	6,988	5,003	1,984	0.09	0.17	2.45	5.58	容器（圧縮または液化ガス用のもの）	鉄鋼製品
1	7312	7,489	1,986	5,503	0.52	0.58	3.51	2.38	より線、ロープ、ケーブル等（電気絶縁除外）	鉄鋼製品
1	7321	692	530	162	0.40	0.13	0.34	1.66	ストーブ、レンジ、炉、調理用加熱器等	鉄鋼製品
1	7322	30	17	13	0.68	0.28	0.26	0.21	セントラルヒーティング用のラジエーター等	鉄鋼製品
1	7325	6,275	1,212	5,063	0.14	0.68	1.26	5.54	其他鋳物用品	鋼管類
1	7326	28,916	21,428	7,488	0.13	0.15	1.07	5.15	其他製品	鉄鋼製品
2	7308	13,286	753	12,533	0.18	0.89	2.18	0.88	構造物とその部分品	鉄鋼製品
2	7313	5	1	5	0.21	0.76	0.08	2.15	有刺線、帯、平線等	鉄鋼製品
2	7316	22	11	11	0.64	0.33	0.49	0.89	アンカーとその部分品	鉄鋼製品
2	7317	88	22	66	0.18	0.60	0.67	0.42	釘、びょう、波釘、また釘	鉄鋼製品
2	7318	2,585	2,365	220	0.09	0.04	0.44	1.77	ねじ、ボルト、ナット、リベット等	鉄鋼製品
2	7323	746	362	385	0.45	0.35	0.22	2.83	食卓、台所用品	鉄鋼製品
2	7324	293	145	148	0.13	0.34	0.30	2.72	衛生用品とその部分品	鉄鋼製品
3	7201	442	3,078	2,636	0.97	0.75	0.04	14.14	銑鉄およびスピーゲル	素材類
3	7202	8,271	11,967	3,696	0.64	0.18	0.61	4.75	Ferro Alloys	素材類
3	7221	1,175	3,511	2,336	0.12	0.50	4.23	1.73	STS鋼の棒	棒形鋼類
3	7309	951	21,560	20,609	0.41	0.92	6.00	0.25	各種材料用の貯蔵槽・タンク等（小）	鉄鋼製品

資料：UN COMTRADE のデータを利用して筆者が計算。

品目であり、全体的には5品目増えて25品目が競争力優位にある。これに対して競争力劣位品目は、素材類と板類は1995年と同じく、7、5、棒形鋼類と鋼管類は1品目減って8、2、そして鉄鋼製品は1995年より4品目減って4品目で

あり、全体的には6品目減って26品目が競争力劣位にある。品目数でみた場合、1995年より競争力は徐々に上昇してきているように見える。特に鉄鋼製品は18品目の中で10品目を占めて相対的に競争力が強い。また鋼管類は6品目中

表11 2009年度競争力(絶対)劣位品目

(単位: 1万ドル)

品目群	HS 92	対日本輸出	対日本輸入	貿易収支	対世界 TSI	対日 TSI	対世界 RCA	対日本 RCA	品目名	用度別分類
4	7203	0	75	75	1.00	1.00	0.01	0.00	直接還元鉄	素材類
4	7204	8,119	120,812	112,693	0.73	0.87	0.45	3.30	古鉄及び再溶解用のインゴット	素材類
4	7205	626	2,305	1,679	0.72	0.57	0.58	7.03	鉄鋼の粒と粉	素材類
4	7206	244	186	58	0.69	0.13	0.43	11.16	鉄塊、卑合金鋼(7203を除く)	素材類
4	7207	605	120,417	119,812	0.90	0.99	0.21	0.74	鉄或いは非合金鋼の半製品	素材類
4	7212	568	1,932	1,364	0.64	0.55	1.93	0.51	鍍金鋼板(狭幅)	板類
4	7213	6,295	10,796	4,502	0.03	0.26	1.44	3.22	棒(熱延圧延したもの)	棒形鋼類
4	7214	879	19,273	18,394	0.06	0.91	0.99	0.37	その他の棒(少し加工)	棒形鋼類
4	7216	2,585	35,894	33,309	0.11	0.87	2.70	0.54	形鋼	棒形鋼類
4	7218	261	1	260	0.48	0.99	0.28	4.45	STS鋼の一次形状と半製品	素材類
4	7219	20,255	38,167	17,913	0.15	0.31	2.90	2.22	STS鋼の熱間圧延鋼板(広幅)	板類
4	7224	6	3,513	3,508	0.79	1.00	0.12	0.17	インゴットその他の一次形状の物	素材類
4	7225	1,286	7,737	6,451	0.59	0.72	1.45	0.27	ケイ素電気鋼の鋼板(広幅)	板類
4	7227	971	6,262	5,291	0.40	0.73	0.75	3.71	其の他合金鋼の棒1	棒形鋼類
4	7228	461	5,182	4,721	0.16	0.84	0.73	0.57	其の他合金鋼の其の他棒・形鋼	棒形鋼類
4	7302	203	532	329	0.18	0.45	0.91	0.35	軌条	棒形鋼類
4	7303	5	12	7	0.50	0.43	0.08	0.23	鋳鉄管	鋼管類
4	7314	90	631	541	0.28	0.75	0.13	1.18	ワイヤクロス、ワイヤグリル、網・柵等	鉄鋼製品
4	7320	421	838	417	0.18	0.33	0.35	1.65	ばね及びばね板	鉄鋼製品
5	7208	42,587	374,068	331,482	0.36	0.80	2.80	2.12	重厚板・熱延鋼板(広幅)	板類
5	7215	42	727	684	0.44	0.89	0.60	0.25	其の他の棒	棒形鋼類
5	7222	1,945	2,293	348	0.47	0.08	0.43	6.96	STS鋼の其の他棒および形鋼	棒形鋼類
5	7226	124	6,905	6,781	0.54	0.96	0.80	0.40	ケイ素電気鋼の鋼板(狭幅)	板類
5	7304	1,000	36,114	35,115	0.62	0.95	0.30	0.69	鋼管(seamless)	鋼管類
5	7315	301	1,815	1,514	0.56	0.72	0.26	2.01	鎖及びその部分品	鉄鋼製品
5	7319	76	223	147	0.52	0.49	0.88	1.87	安全ピン、手縫針、手編針等	鉄鋼製品

資料: UN COMTRADE のデータを利用して筆者が計算。

で3品目を占めて競争的である。ほかの鉄鋼類は相対的に日本に対して競争力が弱いといえよう。

続いて品目別輸出とその特徴をみよう。表13でみるように2009年韓国鉄鋼産業の対日総輸出は25億2711万ドルで、その中で競争力優位(競争力絶対優位+競争力優位)品目の輸出が

約60%で、競争力劣位(競争力絶対劣位+競争力劣位)品目が約40%を占めている。また総輸出の中で46.3%が板類、26.1%が鉄鋼製品、13.2%が棒形鋼類で、素材類と鋼管類の輸出は7%ほどを占めている。輸出比重が一番大きい板類の輸出は11億6951万ドルで、競争力優位品目が約45%、劣位品目が約56%を占めている。

表12 2009年度競争力別品目数目の現況

年度	(1)競争力 絶対優位	(2)競争力 優位	(1)+(2)	(3)競争的	(4)競争力 劣位	(5)競争力 絶対劣位	(4)+(5)	合計
素材類	0	0	0	2	7	0	7	9
板類	4	0	4	0	3	2	5	9
棒形鋼類	4	0	4	1	6	2	8	13
鋼管類	4	0	4	0	1	1	2	6
鉄鋼製品	6	7	13	1	2	2	4	18
合計	18	7	25	4	19	7	26	55

資料：表10 および 表11 より作成。

表13 品目別輸出およびその比重（2009年度）

（単位：上段；1万ドル、下段2行；%）

	競争力 絶対優位	競争力優位	競争的 (均衡)	競争力 劣位	競争力 絶対劣位	合計
素材類	0	0	8,713	9,862	0	18,575
	0.0	0.0	46.9	53.1	0.0	100.0
	0.0	0.0	80.4	22.5	0.0	7.4
板類	52,132	0	0	22,108	42,711	116,951
	44.6	0.0	0.0	18.9	36.5	100.0
	38.6	0.0	0.0	50.4	92.7	46.3
棒形鋼類	18,831	0	1,175	11,394	1,988	33,388
	56.4	0.0	3.5	34.1	6.0	100.0
	14.0	0.0	10.8	26.0	4.3	13.2
鋼管類	16,890	0	0	5	1,000	17,894
	94.4	0.0	0.0	0.0	5.6	100.0
	12.5	0.0	0.0	0.0	2.2	7.1
鉄鋼製品	47,038	17,026	951	511	377	65,903
	71.4	25.8	1.4	0.8	0.6	100.0
	34.9	100.0	80.8	1.2	0.8	26.1
合計	134,891	17,026	10,839	43,880	46,075	252,711
	53.4	6.7	4.3	17.4	18.2	100.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：表10 および 表11 より作成。

次に輸出比重の大きい鉄鋼製品の輸出は6億5903万ドルで、ほとんど競争力優位品目が輸出されている。また鋼管類（輸出額；1億7894万

ドル）も鉄鋼製品と同じくほとんど競争力優位にある品目が輸出されている。そして三番目に輸出比重の大きい棒形鋼類（輸出；3億3388万

ドル)の場合、競争力優位品目が約57%、劣位品目が40%ほど輸出されている。

そして表14が示すように鉄鋼産業総輸入(91億6414万ドル)の中で競争力の弱い品目は約90%輸入されている。また総輸入の中で板類が50.8%、素材類が28.6%、棒形鋼類が9.6%を占めている。これら品目の輸入はほとんど競争力劣位品目であり、うえの分析において競争力が弱い品目であった。またこれらの品目は鉄鋼産業の総貿易赤字(66億3704万ドル)においてこの位の大きさでこの順番で赤字が大きい。そしてうえの分析で競争力の強い鉄鋼製品の場合、競争力劣位品目の輸入はわずかで強い品目

の輸入が約60%を占めている。すなわち鉄鋼製品は競争力優位品目を輸出しまた輸入している。

以上の輸出入を整理すると、鉄鋼産業の輸出は競争力優位品目だけではなく競争力劣位品目も40%ほど輸出されているが、輸入の場合は主に競争力の弱い品目が輸入されている。また板類と鉄鋼製品、棒形鋼類が主に輸出され、板類と素材類、棒形鋼類が主に輸入されている。そしてこれらの主な輸出品目は競争力優位品目だけではなく競争力劣位品目も輸出されているが、板類と棒形鋼類は主に競争力劣位品目が輸入され、素材類は競争力劣位品目と競争的な品

表14 品目別輸入およびその比重(2009年度)

(単位:上段;1万ドル、下段2行;%)

	競争力 絶対優位	競争力優位	競争的 (均衡)	競争力 劣位	競争力 絶対劣位	合計
素材類	0	0	15,045	247,310	0	262,355
	0.0	0.0	5.7	94.3	0.0	100.0
	0.0	0.0	37.5	66.0	0.0	28.6
板類	37,013	0	0	47,836	380,974	465,822
	7.9	0.0	0.0	10.3	81.8	100.0
	48.7	0.0	0.0	12.8	90.2	50.8
棒形鋼類	3,752	0	3,511	77,939	3,020	88,222
	4.3	0.0	4.0	88.3	3.4	100.0
	4.9	0.0	8.8	20.8	0.7	9.6
鋼管類	4,253	0	0	12	36,114	40,380
	10.5	0.0	0.0	0.0	89.4	100.0
	5.6	0.0	0.0	0.0	8.6	4.4
鉄鋼製品	30,910	3,658	21,560	1,469	2,039	59,636
	51.8	6.1	36.2	2.5	3.4	100.0
	40.7	100.0	53.7	0.4	0.5	6.5
合計	75,928	3,658	40,116	374,567	422,146	916,414
	8.3	0.4	4.4	40.9	46.1	100.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料:表10 および 表11 より作成。

目が輸入されている。

以上の2009年韓国鉄鋼産業の対日本競争力に関する品目別競争力および鉄鋼産業の輸出入の分析に基づいて韓国鉄鋼産業の競争力を考えると、鉄鋼製品と鋼管類を除いて全体的に日本に対して競争力劣位に置かれている。特に板類と素材類、そして棒形鋼類において競争力が劣る。

#### 4. 品目別競争力の変化推移

表15 は1995年から2009年へと競争力の変化の推移を示している。鉄鋼製品と鋼管類の場合は、2009年現在1995年の競争力劣位から8品目が競争力優位に転換して相対的に日本に対して競争力優位にある。しかし素材類と棒形鋼類はほとんど変化がなく日本に対して競争力劣位

に置かれている。また板類も2品目が競争力優位に変わったが、1品目は競争力劣位に転落し、依然として競争力は弱い。

そして品目数では板類と棒形鋼類の場合、競争力優位にある品目もかなりあるが、韓国鉄鋼品目の輸出入単価比を計算してみると、鉄鋼産業全体が2.8倍で、素材類が2.8、板類が2.2、棒形鋼類が1.6、鋼管類が1.8、そして鉄鋼製品が3.4倍であり、板類や棒形鋼類のみならず、競争力優位にあると判断される鉄鋼製品や鋼管類さえも輸出入単価差が大きい。これは鉄鋼産業全体において韓国は相対的に品質の劣る安い品目を日本に輸出し、日本からは品質の優る高い品目を輸入していることを示している。以上のように確かに韓国鉄鋼産業は去る14年の間に

表15 品目別競争力の変化推移

1995	2009	素材類	板類	棒形鋼類	鋼管類	鉄鋼製品
絶対優位優位			7209 7210	7217 7223 7229 7301	7306 7325	7310 7322 7308 7313 7317 7318 7323
絶対劣位劣位			7220		7305 7307	7311 7312 7321 7324 7326 7316
絶対優位優位						
均衡			7211			
絶対劣位劣位		7203 7204 7205 7207 7218	7212 7219 7225 7226	7213 7214 7215 7216 7222 7227 7228 7302	7304	7315 7320 7319
絶対劣位劣位			7208		7303	7314
絶対優位優位						
絶対劣位劣位		7206 7224				
絶対優位優位						7309
均衡						
絶対劣位劣位		7201 7202		7221		
絶対劣位劣位						
均衡						

資料：表5、6、表10、11 より作成。

ある程度の技術や品質の向上による競争力の改善はあったけれども依然として日本に対して競争力が弱いとしかいえない。

## V. おわりに

本稿では貿易特化係数および顕示比較優位指数などの各種貿易競争力指数を援用した新しい分析枠を用いて1995年から2009年までの韓国鉄鋼産業の対日競争力の変化について分析した。その結果を纏めると次のようになる。

まず、第一に、韓国鉄鋼産業の日本との輸出入の全体的な特徴は、去る14年間対日本輸出は年平均1.3%の低い伸び率で増加してきたが、輸入は年平均7.0%の高い伸び率で増加してきた結果、日本に対して研究期間中ずっと貿易赤字を出しており、2009年現在66億3700万ドルに上る巨額の赤字を出している。

第二に、1995年韓国鉄鋼産業の輸出は主に板類と鉄鋼製品、棒形鋼類が輸出され、輸入は主に板類と棒形鋼類、鋼管類が輸入されていた。また輸出は主に競争力優位品目が輸出されていたが、輸入の場合は競争力劣位品目だけではなく、優位品目もかなり大きい比重で輸入された。特に板類と鉄鋼製品の場合がそうである。

第三に、2009年韓国鉄鋼産業の輸出は板類と鉄鋼製品、棒形鋼類が主に輸出されたが、輸入は1995年度と違って板類と素材類、棒形鋼類が主に輸入されている。また1995年度と違って輸出は競争力優位品目だけではなく競争力劣位品目も輸出されたが、輸入の場合は主に競争力の弱い品目が輸入されている。

第四に、韓国鉄鋼産業の対日本競争力に関する品目別競争力および鉄鋼産業の輸出入の分析に基づいて1995年の韓国鉄鋼産業の競争力を考えると、鉄鋼製品を除いて全体的に日本に対して

競争力劣位に置かれている。特に板類と素材類、そして棒形鋼類において競争力が劣る。そして1995年から14年経った2009年度の韓国鉄鋼産業の対日本競争力はほとんど改善がなく、鉄鋼製品と鋼管類を除いて全体的に日本に対して競争力劣位に置かれている。特に板類と素材類、そして棒形鋼類において競争力が劣る。

第五に、2009年韓国鉄鋼品目の対日本輸出入単価比を計算してみると、平均2.8倍で、板類や棒形鋼類のみならず、競争力優位にあると判断される鉄鋼製品や鋼管類さえも輸出入単価差が大きい。これは鉄鋼産業全体において韓国は相対的に品質の劣る安い品目を日本に輸出し、日本からは品質の優る高い品目を輸入していることを示している。

以上のように確かに韓国鉄鋼産業は去る14年の間にある程度の技術や品質の向上による競争力の改善はあったけれども依然として日本に対して競争力が弱いといえよう。

## 注

- 1) 韓基早・金玲瑾(2008)は「中国鉄鋼産業の対韓国および対日本競争力分析」『Journal of the Korean Data Analysis Society』第10巻、第1B号、379-397ページにおいて、Im, Hye Joon(2007)、「韓国鉄鋼産業の対日本及び対中国競争力分析」『貿易學會誌』第32巻、第1号、韓国貿易学会、263-282ページとKim, Gene Uhc and Young Suhk Suh(2006)、「韓・中・日鉄鋼産業の競争力変化に関する研究」『国際通商研究』第11巻、第1号、韓国国際通商学会、1-24ページによる貿易特化係数および顕示比較優位指数を用いた輸出競争力の分析方法を修正して新たな分析モデルを提示した。
- 2) こういう分類は、奥村和久(1996)が「日本の対世界貿易 高度成長終焉後の日本貿易構造の変貌(1)」『経済論集』龍谷大学経済学会、第33巻第1号で、国際分業を輸出特化型垂直分業、黒字基調水平分業、均衡、赤字基調水平分業、輸入特化型垂直分業に分けたのを援用して、競争力絶対優位、競争力優位、競争的(均衡)競争力劣位、競争力絶対劣位に分けたものである。
- 3) 本稿では紙面の制約上韓国鉄鋼産業の貿易の特徴

を簡略に述べておきたい。1985年から2009年まで世界の粗鋼生産の年平均伸び率は2.2%で、韓国と中国は各々5.5%と11.0%と高いが、日本は同期間に-0.8%と粗鋼生産が減少趨勢にある。また2009年世界粗鋼生産に占める比重も同期間に日本は14.6%から7.2%に下落したが、韓国と中国は各々1.9%から4.0%、6.5%から46.6%と増加した。そして日本の鉄鋼製品の対世界輸出は1988年の176億1600万ドルから2009年の389億ドルに増加したが、世界市場占有率は同期間に38.9%から8.6%に下落して2009年の中国の同占有率10.5%より低い。また韓国も同期間に対世界輸出は44億4800万ドルから234億8600万ドルに増加したが、市場占有率は9.8%から5.2%に下落した（UN COMTRADEのデータを用いて筆者が計算）。

### 参考文献

- 川端望（2005）『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』、ミネルヴァ書房。
- 奥村和久（1996）「日本の対世界貿易 高度成長終焉後の日本貿易構造の変貌(1)」『経済論集』第33巻、第1号、龍谷大学経済学会。
- 佐藤創（2007）『アジアにおける鉄鋼業の発展と変容』（調査研究書）アジア経済研究所。
- 金博洙他8人（2005）「韓中日FTA：製造業分門の対応戦略 - 敏感な品目の分析を中心に」『経済・人文社会研究会協同研究叢書05 04 02』、韓国対外経済政策研究院。
- Kim, Sae Young（2000）「韓国鉄鋼産業の国際競争力の提高方案」『貿易学会誌』第25巻、第3号、韓国貿易学会。
- 金相勳（2006）、「中韩钢铁贸易的比较优势研究」、对外经济贸易大学、国际贸易硕士论文。
- Kim, Gene Uhc and Young Suik Suh（2006）「韓・中・日鉄鋼産業の競争力変化に関する研究」『国際通商研究』第11巻、第1号、韓国国際通商学会。
- Nam, Si Kyung（2004）「重力モデルを通じた韓中日鉄鋼産業の貿易自由化の効果分析」『POSRI 経営研究』第4巻、第2号、ポスコ経営研究所、韓国。
- 庞徳良・黄容均（2007）、「東北亞“钢铁三强”一体化分析」『东北亚论坛』第2期、吉林大学、中国。
- Shin, Hyun Gon（2004）「韓・中・日鉄鋼輸出競争力の比較分析と示唆点」『POSRI 経営研究』第4巻、第1号、ポスコ経営研究所、韓国。
- 谢向前・张先平（2003）、「国际钢铁贸易新发展的统计分析」『武漢冶金管理干部学院学报』第3期、武漢冶金管理干部學院、中国。
- Sohn, Soo Suk and You, Seung Lok（2005）「韓日FTAが韓国鉄鋼産業に及ぼす影響に関する研究」『経済研究』第23巻、第2号、韓国経済通商学会。
- Im, Hye Joon（2007）「韓国鉄鋼産業の対日本及び対中国競争力分析」『貿易學會誌』第32巻、第1号、韓国貿易学会。
- 吴东胤（2001）、「中国鉄鋼産業の発展状況と韓国への示唆点」『KIEP世界经济』第34巻、韓国対外経済政策研究院。
- 李汉敏（2004）、「试析中日韩建立FTA对中国钢铁业的影响」『冶金经济与管理』第5期、中国金属学会冶金技术经济专业委员会（东北大学）。
- 赵昌旭・徐长生・刘泽斌（2005）、「中国钢铁产业的国际贸易政策选择」『国际贸易问题』第8期、对外经济贸易大学、中国。
- 韓基早・金玲瑾（2008）「中国鉄鋼産業の対韓国および対日本競争力分析」『Journal of the Korean Data Analysis Society』第10巻、第1B号、韓国資料分析学会。
- UN COMTRADE, <http://comtrade.un.org>